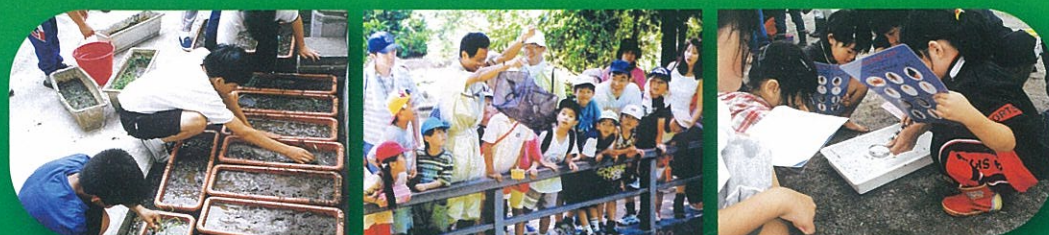




授業に活かす 環境教育

— ひとめでわかる学年別・教科別ガイド —



授業に活かす環境教育

—ひとめでわかる学年別・教科別ガイド—

◎ますます高まる環境教育の重要性

地球温暖化をはじめ、さまざまな環境問題が深刻化する中で、環境教育の重要性がますます高まっています。

●平成18年 改正教育基本法 教育の目標の一つ

生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

●平成19年 改正学校教育法 義務教育における教育の目標の一つ

学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

◎環境教育のねらい

環境教育のねらいは、持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成です。持続可能な社会は、環境だけでなく、社会的公正や経済など幅広い領域と関係することから「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development=ESD）」ととらえ、多分野の教育を積極的に結びつけて取り組む必要があります。

●平成16年「環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本的な方針」に掲げられた環境教育の目指す人間像

人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することを目指します。

●平成19年「21世紀環境立国戦略」による持続可能な社会の定義
健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域まで保全されるとともに、それらを通じて世界各国の人々が幸せを実感できる生活を享受でき、将来世代にも継承することができる社会。

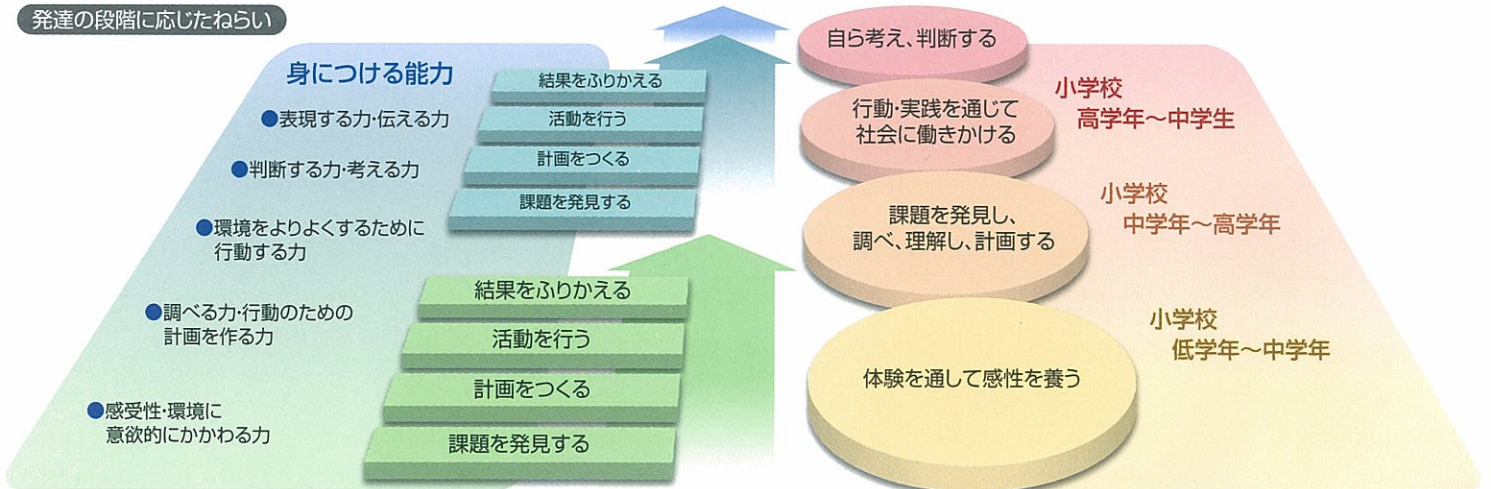
【学校で環境教育に取り組むにあたって】

発達への配慮

小学校低学年では、体験や感性が重要であり、学年が上がるに従い、課題発見と解決の実践力、行動を通じた思考・判断能力と、重点となるねらいが変化します。

また、環境教育では、課題を発見し、取り組み、結果をふりかえる一連の過程を経て、さまざまな能力が身につくよう設計することが重要です。

発達の段階に応じたねらい



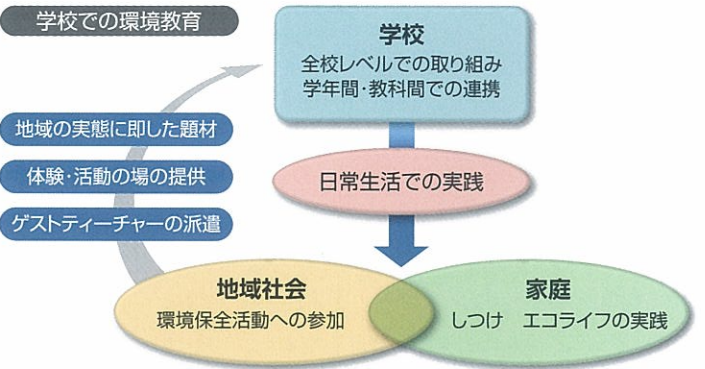
学校全体での取り組み

環境教育には、学校全体で取り組むことが不可欠です。各学校の目標、目指す児童・生徒像を踏まえ、全教職員が環境教育にどのように取り組み、実践するかについて共通理解しておく必要があります。また、学年間・教科間での連携を積極的に図ることにより、環境教育の効果はより高められると期待されます。

地域・家庭とのかかわり

特に児童にとっては、地域の身近な問題に目を向けた内容を取り上げ、身近な活動から学習を始めることが有効です。

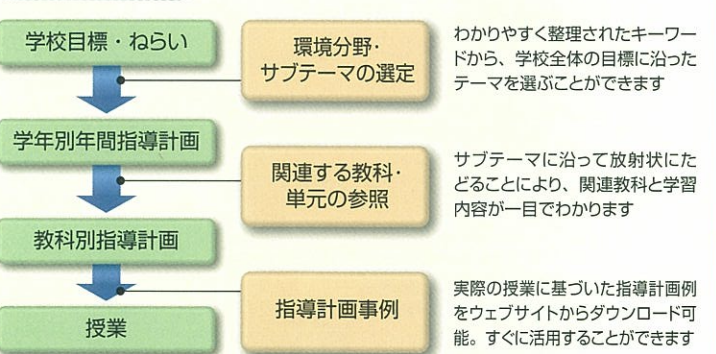
また、環境保全のための取り組みは、日常生活の中でも意識的に行っていくことが求められています。家庭や地域社会と積極的に連携し、学校で学んだことを家庭や地域社会での生活に生かすことができるよう配慮することが必要です。



◎このパンフレットの使い方

平成21年度より順次実施される新学習指導要領から、環境教育に関連する主な項目を抽出し、分野別・発達の段階（小学校低・中・高、中学校）別に整理しました。学校全体の目標から、実際の授業計画作成まで、それぞれのステップに合わせてお使いください。

学校での活用方法



持続可能な社会に 向けた人づくり

気づき・理解 国や地域による文化・生活の違いや、一人ひとりの個性に違いがあることを知るとともに、多様性を尊重した、住みやすい社会を描くことができる。

技能・行動 異なる文化、多様な個性を持つ人が互いに他を尊重して、協力するために、コミュニケーションや合意形成の技能を高め、地域社会に積極的に関わることができる。

気づき・理解 生態系の仕組みや、私たちの暮らしが自然界の微妙なバランスに支えられていることを知るとともに、自然と調和した生活を描くことができる。

技能・行動 自他の生命を尊重するとともに、地域や地球規模で自然環境を保全するために、日常生活で何ができるかを考え、実践できる。

ともに生きる

共生社会

自然・生命

自然調和型社会

思考・判断

日常の中でふだんは見過ごされているさまざまな問題を発見し、関心を持つことで、環境と自らの生活を結びつけて考えることができる。

テレビや新聞・雑誌、インターネットから情報を得るとともに、それらの情報を鵜呑みにせず、批判的に考えることができる。

日常生活の中に潜む問題が、地域や地球規模の問題と深く関係していることを知り、互いのつながりを考えることができる。

さまざまな教科での学習を相互に関連づけ、環境や環境問題を多角的な視点から考えることができる。

ごみ・資源

資源循環型社会

気づき・理解 地球上の資源には限りがあり、乱用すれば枯渇することや、廃棄物の増加が環境を悪化させていることを知り、資源循環型の社会を描くことができる。

技能・行動 日常生活において、廃棄物の発生抑制、製品の再利用、資源の再生利用を意識した行動を工夫し、実践できる。

エネルギー・地球温暖化

低炭素社会

気づき・理解 地球温暖化の仕組み、原因、影響、対策について知るとともに、地球温暖化を起こさない生活や社会を描くことができる。

技能・行動 衣食住の全てを見直し、二酸化炭素排出量の少ない生活様式への転換に向けた行動を家庭や地域で工夫し、実践できる。

4つの分野 3つの観点

幅広い領域にわたる環境教育を4つに分類しました。「自然・生命」「エネルギー・地球温暖化」「ごみ・資源」は、『21世紀環境立国戦略』（平成19年閣議決定）が掲げた持続可能な社会の3つの側面と対応しています。持続可能な社会の形成のためには、国際理解と協調、社会参画などが重要であることから「ともに生きる」を加えました。それぞれが目指す学びの成果を「気づき・理解」「技能・行動」の2つの観点から示しています。全分野に共通する成果として「思考・判断」があります。

学校における環境教育は、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、行動し、問題を解決する資質や能力＝生きる力の育成と結びつけることが重要です。

環境教育の授業例

ウェブサイトでは、実際の授業に基づいた以下のような指導計画の例を掲載しています。
単元の位置づけとねらい、活動内容及び指導の際の留意点等が盛り込まれており、
事例ごとにダウンロードして使用することができます。

<http://www.env.go.jp/policy/nerai/>

「ツバメを通して地域を見つめよう」 小学校3年生・社会・総合【自然・生命】

小学校3年生 社会・総合 16時間扱い 自然・生命

ツバメを通して地域を見つめよう

対象 3年生
教科 社会・総合
関連する単元「まちたんけんしよう」
授業時数 16時間

【単元の概要】

●学習の背景
ツバメは、学校の周辺などに広く営巣する、とても身近な野鳥の一つである。身近な野鳥は他にもいるが、繁殖の様子を比較的容易に観察できる野鳥はあまりいない。そのような理由から、ツバメの営巣の様子を学校や地域の自然環境や環境への変化がめられるようにしたいと、本単元を設けた。

●単元の位置づけ
3年生社会「まちたんけんしよう」の単元では、地域の社会的背景を概観、観察するのだが、その際に、学校付近でも身近な野鳥に営巣し、地域の人たにとっても身近な野鳥であるツバメを見る機会が多い。そこで、社会科も自然の学習の時間を確保させて、ツバメを取り上げることにした。ツバメは、人間の営巣にも関わり合っている。電線や屋根へと巣が張りめぐらされた、子どもたちが、地域の人や自然と目を向け、考えることができる。また、ツバメは、飛んでいる鳥を主食とする鳥も身近な肉食性の動物でもある。つまり、本単元でも自然の生態系である、鳥「食肉動物」として「自然環境」では、このツバメを窓口にして自然を見つけることにより、生態系の様子を探見することができる。身近な地域の自然環境について考えることもできる。

●指導計画（注：単元扱い）


1. 学習 導入（4時間） 「ツバメを見つめよう」
・学校や周辺のツバメやその巣を見つけ、学習課題を見つける。
・学習計画を立てる。

2. 学習 展開（11時間） 「ツバメや地域の自然について調べよう」
・ツバメの生態や行動について調べる。
・ツバメに関する物語について調べる。
・ツバメの営巣について調べる。養蚕家は話を聞いたりする。
・他の野鳥の観察をする。
・地域の建物や昆虫などの自然について調べる。

3. 学習 まとめ（1時間） 「地域の環境についてみんなで考えよう」
・簡単に伝わりやすいように工夫して、調べたことをまとめる。
・調べたことを発表会を行う。

【環境意識を育成し実践行動へむすびつけるために工夫した点】

- ・学習に資する身近な野鳥であるツバメの特性を生かして、人と野鳥との関わりについて考えるようにした。
- ・単にツバメの生態観察にとどまらず、他の野鳥や昆虫、植物など地域の自然環境に視野を広げるようにした。
- ・養蚕やインターネットなどによる調べ活動は最も身近な、身近な人への取材や協力依頼を通して、「自然環境だけでなく、「人環境」との関わりにも目を向けようとした。



●ツバメの生態や行動を観察する。
○時間
ツバメと他の野鳥の飛び方を観察する。

●製作の様子を観察する。
○時間
ツバメの雛の様子を観察する。

●地域の野鳥や昆虫などの自然について調べる。
○時間
ツバメの雛の様子を観察する。

●地域の野鳥や昆虫などの自然について調べる。
○時間
ツバメの雛の様子を観察する。

●地域の野鳥や昆虫などの自然について調べる。
○時間
ツバメの雛の様子を観察する。

●地域の野鳥や昆虫などの自然について調べる。
○時間
ツバメの雛の様子を観察する。



【参考情報サイト】

- 環境教育・環境学習データベース「ECO 学習ライブラリー」 <http://www.eeel.jp/>
- 文部科学省関連
 - 教育情報ナショナルセンター <http://www.nicer.go.jp/>
 - 文部科学省「総合的な学習」応援団のページ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm
- 環境省関連
 - 環境省環境教育推進室「環境教育・環境学習・環境保全活動のページ」 <http://www.env.go.jp/policy/edu/>
 - 環境省こどものページ <http://www.env.go.jp/kids/index.html>
 - 子どもエコクラブ <http://www.ecoclub.go.jp/>
 - 環境省「学校エコ改修と環境教育事業」 <http://www.ecoflow.go.jp/>
 - インターネット自然研究所  <http://www.sizenken.biodic.go.jp/>
 - 国立環境研究所「いま地球がたいへん!」 <http://www.nies.go.jp/nieskids/index.html>
- その他
 - EIC ネット「環境用語集」 <http://www.eic.or.jp/ecoterm/>
 - 財団法人日本環境協会「子ども環境相談室」 http://www.jeas.or.jp/activ/edu_01_00.html
 - ストップおんだん館  <http://www.jccca.org/ondankan/index.html>
 - エネルギー環境教育情報センター  <http://www.icee.gr.jp/index.html>
 - リサイクル (3R) 学習支援ホームページ  <http://www.cjc.or.jp/support/index.html>
 - The GLOBE Program Japan 環境のための地球学習観測プログラム  <http://www.fsifee.u-gakugei.ac.jp/globe/index.html>
 - 子ども農山漁村交流プロジェクト・コーディネートシステム  <http://www.ohrai.jp/kodomo/index.html>
 - 林野庁「森林環境教育の推進」  <http://www.rinya.maff.go.jp/policy2/f-education/top.htm>

このパンフレットは、以下の検討委員の先生方によるご協力のもと、検討会を経て、作成されたものです。また、編集にあたっては、文部科学省のご協力を得ました。
【検討委員】(五十音順、敬称略、職名は平成21年3月現在)

- 金沢 緑 広島県海田町立海田東小学校校長
- 五島 政一 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官
- 日置 光久 文部科学省初等中等教育局視学官
- 小澤 紀美子 東京学芸大学名誉教授/日本環境教育学会会長
- 高橋 康夫 新宿区立市谷小学校校長/元全国小中学校環境教育研究会会長